

一般質問発言通告書

発言順位 8番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 4年 6月 7日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 13番 中村 仁

質問事項 1	三島市における会計年度任用職員の現状について
具体的内容	2020年4月から非正規公務員に対して、会計年度任用職員制度が導入された。導入から2年がたった今、どのような変化や課題などが見られるのか、現状について伺う。
1	人数について、導入前と比較しての変化を伺う。(フルタイム・パートタイム別で)
2	「事務補助」会計年度任用職員の状況、まず勤務時間について、正規職員と比して伺う。
3	同上、年収について
4	20年の制度発足に際して、多くの自治体で期末手当支給分の月例給を減額する措置を講じた、とするような報道も目にした。三島市はどうであったか。
5	導入以前、全国的に「人件費」を小さくする(見せる)ため、雇止めや外部委託を増やすことが懸念されていた。実際、三島市ではどうであったか。
6	フルタイムとパートタイムの現状、その内容などはどうか。
7	正規職員との待遇格差について、三島市においては「問題がある」と考えているか否か。
8	会計年度任用職員について、今後改善していくべきと認識している課題はあるか。
質問事項 2	小中学校コンピュータ整備事業とGIGAスクール推進事業の関係と事業費について
具体的内容	多額の財源が必要となる両事業。1人1台タブレットが確保されると、コンピュータ整備事業はその額を減額していけるものと勝手に思い込んでいましたが、よくわからないので伺います。
1	過去3年間の両事業の事業費について
2	今後数年間に見込まれる両事業の事業費について
3	2つの事業のフルスペックでの並立は不可避か。
4	両事業の事業費に対する見解を伺う。
質問事項 3	人口減少問題を踏まえ、三島市が目指す1番の将来像・シティプロモーションとは
具体的内容	三島市が発信すべき三島市のウリ・魅力、あるいは「地域ブランド」とは何なのか。「自然」や「住みやすさ」、「交通の利便性」、「子育て支援」などは、周辺市町でも同じであって、全国各地でも見受けられる。1つ1つが悪い訳ではないが、どれかに特化せず、広く、いくつも商品を掲げてしまうと日本国内どこにでもあるイメージやメッセージ、キャッチフレーズになってしまっているように思え、差別化されず、残念に感じる。
	また、「箱根西麓三島野菜」などは、オリジナリティはあるものの、三島市が農業を中心として進んでいく将来は想像しがたく、「スマートウェルネス」や「ガーデンシティ」もそれぞれを三島市の「顔」とするには発信力が弱いように思われる。
	人口減少問題に向き合い、人口流出を減らし、流入を増やすためには、「(世代など)メインターゲット」を絞り、それにあった「地域ブランド」を育て、それを生かす「シティプロモーション」が有効であり、それに沿って事業や開発が進められるべきだと考える。
1	三島市が(他市町と差別化して)発信していくべきアイデンティティとは何だと考えるか。